［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日　平成２１年８月１日

【評価実施概要】

事業所番号	９０７０１０２１５８		
法人名	ファミリーケア有限会社		
事業所名	グループホームおおぞら		
所在地	栃木県宇都宮市上欠町１２５３番地７ （電　話）028－648－4195		
評価機関名	特定非営利活動法人　アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町１１８－１８９		
訪問調査日	平成２１年６月２６日	評価結果確定日	平成２１年８月１日

【情報提供票より】（平成２１年５月２９日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成１５年　４月　１日		
ユニット数	１ ユニット	利用定員数計	９ 人
職員数	７ 人	常勤　６人、非常勤　１人、常勤換算　６．６人	

（２）建物概要

建物構造	木造造り
	１階建ての１階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	３０,０００ 円		その他の経費(月額)	２５,０００ 円
敷　　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（１００,０００円）		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	３００ 円	昼食	３００ 円
	夕食	４００ 円	おやつ	０ 円
	または1日当たり	円		

（４）利用者の概要（　５月２９日現在　）

利用者人数	９ 名	男性	０ 名	女性	９ 名
要介護１	２ 名	要介護２	１ 名		
要介護３	５ 名	要介護４	１ 名		
要介護５	０ 名	要支援２	０ 名		
年齢	平均　８７.８ 歳	最低	８０ 歳	最高	９６ 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	鷲谷病院　岩本歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「笑顔の共有」という理念を掲げ、職員と利用者が常に笑顔を交わす家庭的な環境づくりを心がけている。職員は会話のキャッチボールで利用者の笑顔を引き出すよう心がけており、利用者と孫のような年齢の職員が一緒に台所に立ち、利用者に助けられながら食事の用意をしている姿は微笑ましい。ホームでの看取りは行っていないが、重度化した利用者の希望に添って出来るだけ長くホームで過ごす事が出来るよう、家族、病院と話し合い、訪問診療、訪問看護を利用し、事業所が対応できる最大の支援を行い、本人、家族等が安心して納得した終末期を送る事が出来るよう取り組んでいる。重度化した利用者の希望に添い、最期は病院で迎えたが、終末期をホームでケアしたことがある。職員は「出来ることは全てやった」と介護職としての満足を感じている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	改善課題「重度化や終末期の対応」については、入院中に深い褥瘡となった利用者が医療生協の診療所と訪問看護ステーションの協力で退院後治療を受けながらホームでの生活が可能になった事例など取り組みが進んでいる。「夜間職員一人体制を想定した火災訓練」については、近所の人も加わった通報、避難、初期消火訓練などを実施し、利用者の避難時間が短縮したほか、非常時通報先の協力家庭の登録が2軒に増えるなど、一歩一歩前進している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員で取り組み、管理者が仕上げている。職員は自己評価が介護の振り返りの機会となったと捉えている。前回の評価を受けて課題となった点も含め、2008年の改善の取り組みを14項目文書としてまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	改善項目のひとつである訪問診療、訪問看護の利用に関して、具体的な事例を挙げて取り組みの説明がされた。訪問診療と訪問看護の支援によって、褥瘡が完治しないまま退院しホームでの生活を続けることができたことが報告され、その中で見えてきた課題などについて意見交換されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	毎月の請求書を家族に送付する際、預かり金の収支報告、利用者の近況報告、行事の様子を記載したスナップ写真集を添えている。健康状態などの変化は携帯メールや電話で報告している。家族からの意見は、職員間の連絡ノートや会議で伝える仕組みになっている。家族から運営に反映させるような意見が出ないのは、家族が預かってもらうだけで満足しているからではないか、と管理者は捉えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	ホームが望む自治会への加入が実現していないため回覧板による情報は入らないが、同一地区に住む管理者からの情報で地域の文化祭や運動会などに参加している。小学校や幼稚園に利用者が作った雑巾を寄附するなど「地域との支えあい」の関係づくりにも努力している。ホーム近くの団地の公園に散歩に行くことが多く、そこで行われる「よさこい踊り」のグループから見に来てくださいと声がかかる。地区の人がボランティアに訪れる関係も徐々につくられている。

2. 評 価 結 果（詳 細）

※ ▒ は、重点項目。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔の共有」というシンプルな理念を掲げ、職員と利用者が常に笑顔を交わす家庭的な環境づくりを心がけている。利用者と孫のような年齢の職員が一緒に台所に立ち、利用者に助けられながら食事の用意をしている姿は微笑ましい。	○	地域とのかかわりを持つ努力を続ける中、地域での役割、地域の中にグループホームが存在する意義を明確にするためにも、「笑顔の共有」との理念に加え、地域密着型サービスとして「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくための拠り所」となる理念を言葉で示す明文化の必要性を検討されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は会話のキャッチボールで利用者の笑顔を引き出すことを心がけている。職員が利用者とホームの中で笑顔を交わすような関係をつくっていることはもちろんのこと、地域の人と出会ったとき、笑顔で挨拶し、コミュニケーションを取ることができる関係をつくってきている。		
2．地域との支えあい					
▒	▒	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームが望む自治会への加入が実現していないため回覧板による情報は入らないが、同一地区に住む管理者からの情報で地域の文化祭や運動会などに参加している。小学校や幼稚園に利用者が作った雑巾を寄附するなど「地域との支えあい」の関係づくりにも努力している。ホーム近くの団地の公園に散歩に行くことが多く、そこで行われる「よさこい踊り」のグループから見に来てくださいと声がかかる。地区の人がボランティアに訪れる関係も徐々につくられている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組み、管理者が仕上げている。職員は自己評価を介護の振り返りの機会となったと捉えている。前回の評価を受けて課題となった点も含め、2008年の改善の取り組みを14項目文書としてまとめている。例えば、改善点としてあげられていた重度化した場合の訪問診療、訪問看護との連携については、入院中に深い褥瘡となった利用者がふたば医療生協の診療所と訪問看護ステーションの協力で退院後治療を受けながらホームでの生活を可能にするなど改善している。	○	改善課題となっていた夜間職員一人体制を想定した火災訓練は、通報、避難、初期消火など近所の人も加わり行われ、利用者の避難時間が短縮し、非常時通報先の登録に、協力家庭が2軒に増えるなど、一歩一歩前進している様子がうかがえる。今後も地道な取り組みの積み重ねを大切にしてほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で改まって評価に対して意見が出ることはないが、改善項目のひとつである訪問診療、訪問看護の利用に関しては、具体的な事例を挙げて取り組みの説明がされた。訪問診療と訪問看護の支援によって、褥瘡が完治しないまま退院しホームでの生活を続けることができたことが報告され、その中で見えてきた課題などについて意見交換されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	訪問診療、訪問看護の依頼先について市に相談している。市からは情報提供を受けただけだが、そこから訪問診療、訪問看護の協力までたどり着きサービスの改善につながった。市の介護保険担当者と介護相談員、グループホーム、小規模多機能型居宅介護施設、特別養護老人ホームの事業者との意見交換の場ができた。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書を家族に送付する際、預かり金の収支報告、利用者の近況報告、行事の様子を記載したスナップ写真集を添えている。健康状態などの変化は携帯メールや電話で報告している。職員の異動などは運営推進会議の場で伝えている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から職員に関して意見が出ることはあるが、運営に反映させるまでの意見は出ていない。家族は、預かってもらうことで満足している様子がうかがえる。家族からの意見がある場合は、職員間の連絡ノートや会議で伝える仕組みになっている。前回改善点としてあげられていた宇都宮市の福祉担当課の連絡先が苦情等の相談窓口として重要事項説明書に記載された。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ一年の職員の異動は一人で、利用者のダメージにつながるようなことはなかった。介護業務マニュアルを整備し、新規採用者には入職時に読んでもらい、介護の質が変わらないようにしている。介護業務マニュアルの整備は、ホームとしての業務の見直しにもつながっている。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所として新人研修は行っているが計画的なステップ研修となっていない。単発的な外部の研修を受けた職員のレポートを回覧、会議の場で伝達研修の形で所内研修とするなど努力しているが、事業所として年間研修計画を立てるまでに至ってない。2008年度は介護福祉士の資格を取った者が1名、次年度も受験予定者がいるなど、職員に資格取得を勧めている。職員からの提案制度を試行開始している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の研修会には職員が交代で参加したり、県内のグループホーム協議会へ参加するなど、同業者の職員と交流する機会となっている。交流のある市内のグループホームの夏祭りには利用者と一緒に参加するなど相互訪問の関係ができており、交流を深めている。他グループホームの職員の見学や相談、小規模多機能施設管理者の運営推進会議の傍聴などを受け入れてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面談でホームに来て頂いた時から、入居相談の段階で入手している情報をもとに、ホールの利用者と交流する時など不安がないように対応している。入所当初はベテランが対応し、安心して生活できるように支援している。ショートステイの利用も困難であった人がスムーズに利用開始できた事例もある。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員が苦手とする料理である天ぷらや煮物、行事で草餅を作るときや餅つきのこねどりなど利用者の出番となっている。職員は不安であった入職当初、利用者からいたわりの声を掛けてもらいありがたかったこと、久しぶりの勤務で顔を合わせたときには寂しかったと言われ、必要とされていると感じたことなど、力をもらえる言葉を掛けられ、介護する立場であっても支えられていると感じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成担当者が基本情報の記入を行い、センター方式により家族の協力も得て、本人の思い、不安、意向、心身の状態を把握し、職員の日常のケアからの気づきを加えて、一人ひとりの思いやくらし方の意向把握に努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの思いや希望は職員が日常的に把握し、家族の意見は介護計画作成担当者が事前に聞き取る。家族からは、散歩に連れていってほしい、本人は気持ちを伝えにくくなっているのでできるだけ関わってほしいなどの要望が出る。2ヶ月に1度の職員会議の場でも意見を聞き、例えばAさんは頭痛の訴えがあるときコーヒーを飲むと落ち着く、Bさんの料理が好きで活き活きと生活できていた頃のことなど様々な情報を持ち寄り介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは1年を目安としているが、利用者の状態の変化の兆しを察知したり、変化が生じた場合、その都度見直している。介護計画作成担当者もケアの現場に常にいることから、利用者の変化に応じて見直しができる。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院により体力が落ち歩けなくなった利用者がホームに戻り段階をふんだ食事、日々のケアで歩けるようになった事例がある。また入院した利用者が退院後利用者にとって負担となる通院を回避し、訪問診療、訪問看護の活用によりホームでの生活、治療が継続して行えるよう柔軟な支援をしている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医へ家族が付き添って通院しているが、家族の都合がつかない時は職員が付き添い、受診支援をしている。目の不自由な利用者は障害者自立支援法によるガイドヘルプサービスを利用して通院している。かかりつけ医で入院対応ができない場合は、入院できる病院や協力医の訪問診療を紹介したり、認知症の専門医の受診が必要な場合は認知症専門医療機関を紹介して、適切な医療を受けられるよう支援をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りは行っていないが、重度化した利用者の希望に添って出来るだけ長くホームで過ごす事が出来るよう、家族、病院と話し合い、訪問診療、訪問看護を利用し、事業所が対応できる最大の支援を行い、本人、家族等が安心して納得した終末期を送る事が出来るよう取り組んでいる。ターミナルケアについての研修や運営推進会議、職員会議等で体制づくりなどについて話し合う機会を持っている。	○	重度化した利用者の希望に添い、最期は病院で迎えたが終末期をホームでケアしたことがある。職員は「出来ることは全てやった」と、介護職としての満足を感じている。事業所では重度、終末期、看取りの支援は家族、職員、訪問診療、訪問看護の協力、連携により可能になると考えていて、体制作りを検討している。終末期の対応について心配している家族もいるので、職員、家族、医師、看護師などとの話し合いを継続して、関係者全体の方針の統一を図ることを期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** ⑴ 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日中、居室で本を読んだり、静かに過ごしている利用者へは声をかけすぎて邪魔をしないよう気をつけている。トイレ誘導では、あからさまに言うことなく、別の用事を頼むなどして自尊心を傷つけないように排泄支援をしている。職員ミーティングで関わり方の点検、徹底を図り、書類記載ではイニシャル表記にして、プライバシーの確保に努めている。希望で居室ドアに鍵を設置している利用者もいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるものの「居室で本を読みたい」「一人で静かに過ごしたい」「歌を唄って楽しみたい」「外へ行きたい」「朝ゆっくり起きたい」など出来るだけ利用者のその日のペース、希望にそった支援をしている。しかし、職員が聞いても希望をはっきりとは言わない利用者もいる。また職員が少ない時は、希望にそった個別支援が難しいこともあると認識している。	○	家族からの満足を示す意見が多くても、利用者本人が希望を言わない場合は、言おうとしている思いを汲みとり、その人らしさを大切にした過ごし方の支援を更に期待する。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
⑵ その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	3日に1回位利用者と一緒に買い物に出かけ、その季節の野菜を見たり話題にしながら好み、食べたい物を盛り込むようにして献立を作っている。職員と一緒にてんぷらを揚げたり、職員の声かけで手際よく盛り付けをしたり、自分から食べ終わった食器を片付けたりする姿が見うけられた。食事の時は、職員全員が一緒に席について利用者と和やかに食事をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望が多い時間帯（16：00～18：00）の入浴に対応している。入浴を拒む利用者へは、その時には無理をしないで、お茶を飲んだり、話題を変えたりして再び声をかけるなど、タイミングや雰囲気づくりをしてスムーズに入浴できるよう工夫している。入浴剤や冬はゆず湯で入浴を楽しんでいる。職員との会話で「昔よく行った温泉に行きたいね」と希望を話していた利用者がいた。		
⑶ その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活や経験してきた仕事、趣味、持てる知恵を活かして、布団敷き、掃除、洗濯物干し、縫い物、漬物漬け、お茶入れ、食事の調理･配膳･片付け、草むしりなど、一人ひとりの力や得意分野が発揮できる場面をつくっている。その時必ず感謝の言葉を伝えている。通院の帰りの買い物、月1回の外出･外食、年3回の家族イベントを楽しみにしている。目の不自由な利用者は障害者自立支援制度のガイドヘルパーと教会へ通っている。		若い職員は味付けや、料理の仕方など利用者から教えてもらうことも多い。自分の役割を持ち人の役に立つ人として、利用者の持てる力を引き出し自信につながるような働きかけをしたいという職員の姿勢はこれからも継続していただきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	声かけをしての散歩、週2回食材の買出しをかねた順番での買い物など外出支援をしているが、重度化（気力、体力の低下）により利用者の外出希望が出にくくなっている。家族と散歩や買い物などに出かける利用者もいる。急な外出希望には職員配置などによって難しい場合もある。	○	利用者の気力、体力が低下してきていて外出希望も出にくい状況である。しかしながら、利用者がこれまで通り当たり前に出かけられることが望ましいことを管理者は理解しており、寝たきりであっても外の空気を吸ったり、庭の花を観る機会をつくったり、利用者同士が気まずい雰囲気の場合は外へ出て気分転換を図ったり、と思いを汲みとって外出の支援をしている。今後も、利用者一人ひとりの希望に沿った外出支援の取り組みを期待する。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
⑷ 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者は鍵をかけることの弊害を理解していて、日中玄関の鍵はかけていない。しかしホームの前が車道のため危険防止の理由から家族の了解を得て内扉に簡易な鍵をかけている。利用者が外出したい様子の時は見守りや、一緒に行くなどの気を配っている。利用者からの希望でプライバシー確保のために鍵を設置している部屋もある。	○	運営者は鍵を掛けることの弊害を理解しているので、利用者個々の外出の傾向、条件、行き先やその日の気分、状態などを把握するとともに、日常のケアでは死角となる場所、時間帯での見守り方法の徹底、連携プレーなど今後更に話し合いを継続して鍵をかけないケアに近づけることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災対応マニュアルがあり、職員は救急救命講習を受けて応急手当、人工呼吸法などを学んでいる。事務所には消防署と直結している自動通報装置が設置され、消防署の協力を得て行われる火災訓練には近所の人も加わり、非常時通報先に2軒が登録している。毎年の訓練で利用者の避難時間が短縮してきている。夜間職員一人体制を想定して通報、避難、初期消火などの訓練を実施し、さらなる検討課題が明らかになった。	○	夜間一人体制を想定した火災訓練で明らかになった課題を改善するために、今後さらに訓練を重ね、一人体制の不安を少しずつでも解消するように努めてほしい。
⑸ その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は1200cal/日、水分は1．2L/日を目安におおまかな摂取量を把握している。体重の増減、持病の症状などにより水分、糖分、塩分を摂りすぎることがないよう食事の内容、量などを調節、配慮している。血液検査の結果から栄養状態についてかかりつけ医からアドバイスしてもらっている。利用者の状態により、とろみ食、刻み食、おかゆ、普通食にして必要な栄養が摂れるよう柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり ⑴ 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関アプローチにはベンチが置かれ中に入ると昔懐かしいつくりの下駄箱が設置されてる。食堂は全員が一緒に囲めるようテーブルが配置され、オープンカウンターの調理室では職員と利用者が昼食の準備をしていて料理の匂い、音などが五感に刺激を与えている。ホームでの生活の写真を納めたアルバム、本などが置かれた一角のソファーで利用者がゆったりとテレビを観ていた。利用者の書、汽車の白黒写真、居室入口の自作の壁掛け、手作りネームプレート、手縫いの作品、観葉植物や庭の季節の花等によって、生活感や季節感を感じることができるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳に布団を敷いて眠り、炬燵に入って寛ぎ、仏壇、タンス、テレビ、時計、写真、鏡、テーブルなど使い慣れた家具を持ち込みその人らしい部屋となっている。仏壇のお花に野の花を摘んでくる利用者もいる。各居室の外に窓の高さに合わせた布団干しが設置され、利用者が使用しやすく、訪問時にも布団が干されていた。家族と相談しながら利用者の症状、状況に合わせて、居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。		本人の馴染みの持ち物が少なかったり、家族の協力が少ない場合でもそれに捉われず、職員は利用者の気持ち･意見･希望を確認して、その人らしく居心地よく過ごせる居室づくりしているので今後も継続していただきたい。